

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490400217		
法人名	医療法人 聖峰会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	日田市有田町455-1		
自己評価作成日	令和6年1月24日	評価結果市町村受理日	令和6年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_02_2_kani=true&JigyosyoCd=4490400217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構		
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府壺番館 1F		
訪問調査日	令和6年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の持つ能力・残存機能を最大限に発揮できるような環境作り。
利用者だけでなく、職員も一緒に楽しみながら笑顔で1日を過ごしていただけるような生活の場の提供。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年、利用者が暮らし続ける地域の中で安心した暮らしの継続とともに、残存能力を生かした日常生活は伸びやかで、高齢化する利用者も笑って過ごせる環境となっています。併設するデイサービス・小規模多機能施設・1ユニットのグループホームと3施設の連携は職員のケアの向上として生かされ、働き易い環境作りに法人が一体となって取り組み、バランスの良い職員体制と連携強化や相談しやすい環境となり、より一層利用者のサービスの質向上に繋がっています。日田市主催の「グループホーム連絡協議会」では、研修や勉強会を通し、各施設の職員との意見交換・情報提供がサービスの質向上に役立っており、市との協力関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人と事業所の理念は玄関に掲げ、職員と共有を行っている。	地域密着型サービスの意義や役割を踏まえた理念(法人と事業所)を目の付く場所に掲示し、職員と共有実践に繋げています。「地域貢献・心安らぐ介護～」を念頭に、個別ケアに取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度はコロナ緩和に伴いタイミングを見て支援学校の生徒と七夕交流会を行なった。	事業所は自治会に加入しており、運営推進会議に地域代表の出席もあり情報交換を行い、協力関係を構築しています。コロナ感染症が5類に移行した現在地域交流も再開し、ボランティア等の協力で催し物を行う予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	他の施設や病院で見れなくなった利用者の受け入れを積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年より会議室にて開催。 ヒヤリハットの報告等を行い、市や自治会からの意見を頂いている。	運営推進会議では10名程の参加者があり定期的に開催されています。事業者からの報告に対して色々な意見が出され、その中で警察の方から防犯についての話があり、「さすまた」の使い方や椅子を使い防衛する方法等講習と意見交換を行いました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などを通じて、知り合った担当者や連携を取り、協力をお願いしている。	介護保険や法律改正に伴う運営上の問題を相談し、助言を得る等良好な関係を構築しています。市主催のG・H連絡協議会の参加では、情報交換や連携強化が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を開いたりして、ベットの柵等は必要最小限にし、外に出たい利用者には希望時に散歩に出たりしている。	身体拘束排除・虐待防止の理念をもとに、研修会を年2回以上行い意思統一を図っています。今回は人権やスピーチロックを議題に勉強会を行い、職員一人ひとりの理解と意識向上を図り、職員相互の信頼関係を築いています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修に入れ、ビデオ研修などにて学習し、職員同士で注意しあい、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナの為、外への研修機会がなく、出来ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、家族の希望も伺っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には管理者やケアマネが対応し、家族との話を聞いている。	開設以来、家族との信頼関係を大切にする運営に努めています。家族には「さくら通信」にて、利用者の日頃の様子を発信するとともに、電話連絡や面会時に意見や要望を聞いています。その中で「墓参り」の要望があり、家族の協力のもと実現に向けて計画中です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを行うとともに、ライン等を活用し個別の案件にも対応している。	意見や相談がしやすい関係作りを心掛けています。ミーティングや年2回の個別面談で意見交換を行い働きやすい環境づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、法人がストレスチェックを行うなどして、職員の心のケアに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格を持ってない方には初任者研修を受講してもらった。毎月法人内研修はWEBにて行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日田市のグループホーム協議会に参加し、合同での研修が行われた。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時におおよその事は聞き取りを行って いるが、入居された後は、なるべく話をする 機会を設けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	契約時に行っている。 スタッフが出来る事、出来ないことを話し会 う機会を持ち、その利用者にあったサービ スを提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	契約時に聞き取りを行ったことを、サービス 担当者会議を開くことで、ケアプランに反映 させている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者、職員共に楽しむように指導してい る。 職員も、利用者が何に興味を持っているか 等、聞き取りを行い、利用者が喜んでもら うよう努力している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	面会時には家族とのコミュニケーションは忘 れず、お互いに協力し合う体制を整えてい る。 家族との縁が切れないように衣替えなどを 家族に対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法人からの指示に沿って家族柄面会時間 等を伝え一緒に過ごす時間を提供できた。 利用者の希望に応じ家族に電話する機会を 作ったり、ドライブで自宅を見に行ったりす るなどの支援は出来た。	コロナ感染症が5類に移行したことにより、居 室で時間を決めての面会に変更しています。 県外にいる子どもが面会でフラダンスを披露 したり、馴染みのカフェに行ったり、年賀状や 母の日の電話等親族や友人との関係継続の 支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	常に職員が見守り利用者同士の間に入るこ とで、利用者同士の関わりに携わっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時は関係を続けていく事は難 しい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを参考に、生活歴や趣味等を聞き取り、本人らしさを尊重し、プランや生活に取り入れる努力を行っている。	利用者が入所時に気持ちが落ち着き、混乱なく馴染めるよう、家族から聴き取り、入所後の職員の関わり方の参考にしています。利用者と1対1の機会を利用し、思いや意向の把握に努め、その人らしく暮らし続ける支援を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族の方に習慣や好きな事を聞き取り、歌や畑仕事を生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、フロアや居室で過ごされる方の思いに応じた生活が出来るよう、所在確認等の記録を行っている。 色々なことを見守りながら行ってもらい、どのくらい出来るのかの把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を行うことで、家族には現状の把握を行って頂き、今後の希望や支援方法を行う。 3か月ごとに計画の評価を行い、見直しを行っている。	ケアプラン作成時には、担当者会議(家族・担当職員)を行い、利用者の思い、家族の希望や心配なことに重点を置き、達成可能な短期目標、サービス内容を設定しています。 3ヶ月毎の見直しではモニタリングを行い、サービスの実施状況、目標達成度をチェックし、次に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングノートを活用し、情報の共有を行っている。 毎月のミーティング時に各担当者がスタッフからの聞き取りを行ったり、アイデアをもらい実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他の施設に比べ、柔軟な対応は出来ていると思う。 (お酒が飲みたいという利用者に、ビール等のアルコールの提供など)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校や支援学校との交流を行っている。鼓笛隊パレードの受け入れや、訪問をしての学生との交流など。訪問理美容サービスを利用し、散髪してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医はそのままに、往診や受診援助にて対応出来ている。	入所時に家族と話し合いを持ち、今までのかかりつけ医を希望する場合は、往診や家族による定期的な通院を行っており、主治医の指示があれば、利用者の病状に対応できる医師による適切な医療をいち早く受けて頂けるよう支援しています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職も介護現場に入っている為、常に情報の共有は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護添書を活用し、看護師同士でのコミュニケーションは取れている。退院時等の情報は、病院のワーカーと連絡を取りながら管理者が情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを行う際、ご家族、主治医、訪問看護で話し合いを行い、事業所で出来る事、出来ない事の情報の共有を図っている。	重度化から終末期を迎えた時は、入所時のオンコルフローチャートを用いた看取り計画書のもと家族の思いを尊重した上で、事業所でできる可能な限りの対応ができるよう、看護師・医師・職員全体で情報共有に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のオンコルフローチャートの作成は出来ている。AED講習については消防所にて参加した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。 現在は火災限定な所があるので、今後、地震・水害に対応したBCP作成した。	年2回、非常災害時に対応ができるよう、避難訓練を行っていますが、地震・火災・水害時に、何時どの段階で何処に避難したら良いかを、防火管理者のもと年2回のうち1回は夜間発生時を想定した訓練を実施する為のBCP作成に取り組んでいます。	新人職員が入った時は、利用者を安全に避難誘導する為に、避難ルートの確認等全職員での情報共有に努め、消防団・近隣住民等地域との連携体制構築も望まれます。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本、相手を思いやり、敬語で話すように心がけている。	基本的に利用者一人ひとりの生活歴をしっかり把握した上で、何事も否定をせず、その方の話を全て受け入れるよう対応に努めています。使い慣れた方言での親しみやすい会話で楽しんで頂ける時も、尊厳とプライバシー遵守に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に声掛けを行い、その時に何がしたいかを自己決定していただき、職員の都合で動かないように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上記のとおりだが、意思決定できない利用者に対しては、こちらからの提案の中で選んで頂き、無理強いはいしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が難しい利用者には、スタッフや家族の支援にて行っている。 朝の整容は出来るところまで自分で行って頂き、出来ないところのみ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は行っていないが、月に1回程度、何を食べたいか聞き取りを行い、スタッフと一緒に調理することはある。(行事として)	食事は手作りで3食提供しています。メニューも利用者からの希望に沿った地元の汁物やイベント時に一緒にホットケーキや団子汁を作り、飲み物をとろみで飲みやすくして、提供する等イベント気分を楽しんで頂いています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や水分の量は記録し、水分制限や禁忌食などの確認を毎日行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず職員の声掛けにて行っている。 出来る範囲で行ってもらい、出来ていない部分はスタッフの介助にて行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者全員に、定時での声掛けを行い、排泄チェックに記録することで、排尿の間隔を把握している。 トイレ内では出来ない部分だけを介助している。	排尿パターンは、間隔を排尿チェック表に記録することで把握しており、定時に声掛けして、トイレ誘導し利用者のできない部分を手伝って、自立排泄の支援に努めています。	便秘がちな利用者の為に、家族が薬以外の対応として本人の喜ぶ牛乳や乳酸菌飲料・果物等も持参してみえることも多いことから、事業所と家族との連携体制の良さが感じられます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを記録することで、量や間隔を把握し、腹部マッサージを行ったり、牛乳を飲ませたりして排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は施設で決めているが、声掛けに拒否が見られたときは、時間をずらすなどの対応を行っている。終日気分が乗らない場合は、曜日を変える等の対応を行っている。	週2回 午前中の中の入浴が基本ですが、拒否する利用者には少し時間を置いたり、相性の良い職員が対応することやいろんな入浴剤を入れてストレッチャー浴で安全にゆっくりと浴槽に浸かる事で入浴を楽しんで頂いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は散歩や日光浴を行ったりし、夜や夜間帯はそばに付き添い、話をゆっくりきく事で心穏やかに休んで頂けるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情にて何の薬化を把握し、飲ませる際にも2人で確認を行い、飲み忘れや、内服間違いがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅でも行っていた、掃除や洗濯ものたたみを行って頂いたり、調理レクを開催し、食事やおやつ作りを楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調を考慮し、近隣の散歩や利用者の日用品の買い物、畑の草取りを行う等の支援を行っている。	家に帰ってどうしてもしたい事がある等、利用者の希望に応えるために、状況の許す限り全職員で支援に努めています。特に先祖供養の為の外出には家族からの要望もしっかりと聞き取り事業所の役割としてのスタンスを確立すべく支援しています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は預り金として施設にて預かっている。希望する利用者には財布の中に最小限のお金を入れて持っていていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親戚からの電話の取次ぎを行ったり、希望があれば施設から電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には職員や利用者の手作りの作品を飾り、毎月、その季節に合った作品を制作し、展示している。 室温や湿度の調整を行い、くつろげる空間づくりを行っている。	日当たりもよく広い施設内は、感染対策にも充分対策を講じた上で机の上のパーテーションは撤去して室内の換気や室温・乾燥を防ぐために湿度調整にも絶えずチェック表での対応をしています。季節の行事の手作り作品を職員と一緒に作って、壁面に飾り付けて楽しんで頂いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビとソファを離れた場所2か所に配備し、利用者の好きな場所で過ごせる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを自宅から持ってきていただき、写真やプレゼントを置くことで、利用者が居心地よく生活できる環境づくりを行っている。	筆筒とベッドは備え付けの物ですが、利用者の好みの物を自由に持ち込めるよう入所時に家族と話し合いを持ち、今まで使い慣れた布団や馴染みの物を置いていただき、居心地の良い部屋となるよう転倒防止・安全配慮の支援に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように、椅子やソファの配置を考え、介助を必要最低限にする環境作りを行っている。		